

内定者が実際に提出した

内定者ES回答 例文集

これから選考を受ける学生必見！

株式会社フジ・ネクステラ・ラボ

キヤノンITソリューションズ株式会社

インフォテック株式会社

デンソーテクノ株式会社

サイボウズ株式会社

※本資料はエンジニア就活の会員から寄せられたクチコミ投稿をもとに、本人の許諾を得て作成しています。
大学名・ITスキルなど、本人が非公開を選択した情報は掲載していません。

株式会社フジ・ネクステラ・ラボ

システムエンジニア職 内定者 | ES提出：2026年1月上旬 部活動

Q. 自己PR

私の強みは、チーム全体の関係性を俯瞰し、立場の異なる人の考えをすり合わせるリーダーシップです。先頭に立って指示を出すのではなく、それぞれの意見を理解し、信頼関係を築くことを大切にしてきました。高校の〇〇部では、その姿勢と顧問からの信頼を評価され、キャプテンを務めました。当時は、技術力の高い外部コーチの影響力が強く、部員の意識が偏る一方で、顧問との連携が十分に取れず、チームの一体感が低下していました。そこで私は、指導陣と部員双方の意見を整理し、互いに共有する役割に徹しました。その結果、指導方針への理解が深まり、チーム内の信頼関係と一体感を高めることができました。この経験から、技術だけでなく立場の異なる人の考えを理解し、認識をそろえることの重要性を学びました。貴社においても、多様な立場の方と協力し、プロジェクトに貢献したいと考えています。

Q. 学生時代の取り組み

私は学業に力を入れました。その中で、自身の成長につながる学び方とは何かを考え、学びへの向き合い方を見直しました。入学当初は、人に頼る前にまず自分で理解することを大切にしていました。しかし、大学で初めて学ぶコンピュータの分野では一つの課題にも様々な解法があり、周囲の意見を取り入れることが本質的な理解に繋がると気づきました。そこで、単に分からない点を解消するだけでなく、より深く理解し成長につなげるために、友人と意見を交わして学ぶようになりました。具体的には、友人たちとコードを見せ合い、考え方や実装の意図を共有しながら学習を進めました。互いの考えを共有する中で、新しい視点に触れ、理解の幅が広がりました。その結果、学びを一人で完結させず他者の視点も積極的に取り入れる姿勢が身につき、通算GPA〇.〇〇という成果にもつながりました。この経験で得た学び方を、チームで成果を高める場面でも活かしていきます。

Q. 身の回りにあるITを活用した事例を1つ挙げ、そこから考えられる改善点やアイデアを教えてください。

私が通っている大学では、Web上での履修計画システムを通じて、授業登録が行われており、登録作業を効率化している点で有効なITの活用事例だと感じています。一方で、履修計画システムは科目名や授業日、単位数といった各授業の基本情報の表示にとどまっています。加えて、授業の内容や難易度、評価方法など、学生が履修を計画する上で重要な情報が十分に提供されていないと感じました。その結果、履修後に想定との差が生じ、履修を削除したり、単位を落とすことにつながる場合も少なくありません。そこで、履修計画システムに過去の履修者データや匿名アンケートを反映することで、学生が事前に納得感を持って履修の判断ができると考えます。これにより、学生の満足度の向上だけでなく、大学側にとっても履修削除の抑制につながり、履修計画システムを単なる登録ツールではなく、履修判断を支える仕組みとして活用できると考えました。

Q. チームまたはグループで一つの目標を達成したエピソードを教えてください。その過程で発生した課題やトラブルがあれば、その変化に対応すべくどのように対応したかも記載してください。

大学時代に、チームでのソフトウェア開発に取り組みました。基本的な機能を完成させることを目標とし、私はリーダー的な役割として、議論の整理や日程調整などを担いました。開発初期、複雑な仕様を巡り、メンバー間で理解にばらつきがあり議論が停滞しました。私は原因を前提条件の共有不足と考え、仕様や処理の流れを図に可視化し、認識を統一しました。また、終盤には、大規模なデータ処理で原因不明のバグが多発しました。そこで私は自らテスト担当を引き受け、実装だけでなく要件定義や設計まで遡って検証する方針を提案し、原因特定を主導しました。その結果、大規模データ対応の機能拡張には至りませんでした。基本的な機能を仕様通りに動作させるという当初の目標は達成できました。この経験から、チーム開発では全体の前提や流れを整理し、認識を揃える行動が成果の質を高めると学びました。

✎ 気を付けたポイント（本人コメント）

結論から書くことを意識し、大学での開発や部活動の経験を通じて、課題に対しどう考え、どう行動したかということをつなげる文章にすることができた。また、自身の強みがどのように活かされるかを言語化することも心がけた。

まとめ

部活動でのキャプテン経験と、大学での学び方の変化を通じて「他者の視点を取り入れる姿勢」を一貫して語っています。複数の設問全てに共通する軸(協調性・認識をそろえる力)を通すことで、人物像に一貫性を持たせている点がポイントです。

キャノンITソリューションズ株式会社

内定者 | ES提出：2026年2月下旬 **アルバイト**

Q. 自己PR

私の強みは、責任感を持って周囲と協力しながら行動できる点です。〇〇のアルバイトでは、忙しい時間帯にスタッフ同士の連携が取れず混乱することがありました。そこで私は率先して声をかけ、役割を整理することでスムーズな対応につなげました。その結果、チーム全体の雰囲気も改善し、お客様からの評価も高まりました。この経験から、周囲と協力しながら課題を解決する力を身につけました。御社でも仲間と連携し、責任を持って業務に取り組みたいと考えています。

✎ 気を付けたポイント（本人コメント）

読み手に伝わりやすいよう、結論を先に述べてから具体例を示すことを心がけました。また、専門的な内容はできるだけかみ砕き、専門外の方にも理解していただける表現を意識しました。文字数が限られている中でも、自分の思いや強みがしっかり伝わるように簡潔にまとめることを意識しました。

まとめ

アルバイトでの経験から「責任感を持って周囲と協力する」という強みを、結論→具体例→学び→入社後の抱負という型でシンプルにまとめています。短い文字数でも要点が伝わる構成です。

インフォテック株式会社

システムエンジニア職 内定者 | ES提出：2024年2月上旬 **サークル**

Q. ITへ興味を持った理由

大学2年生の時に、コロナ禍で活動が2年間止まっていたサークルの副部長に任命されました。コロナ禍のため入部してから大きな活動ができておらず先輩との関わりもなかったためサークルの運営をすることがとても不安でした。そのような中、部員たちと協力して文化祭やサークルの企画ライブを行うことで、学年を問わず関わりを持てるようになり、多くの信頼できる部員ができました。現在では、学内で一番部員の多いサークルにまで成長させることができました。また、学部での授業の経験を活かし、私は以前まで導入されていなかった、Googleフォームやクラウドサービスを使ってサークルのデータ管理をする仕組みを作り、業務効率化をしました。

Q. ITについて勉強したこと

ITパスポートを取得しました。

✎ 気を付けたポイント（本人コメント）

ITで誠実な社風であることがポイントであると感じたため、その点にフォーカスして作成することを心がけました。自分の経験や専攻している学問との関わりを見出して記述すると良いエントリーシートがかけると思います。

まとめ

コロナ禍で活動が止まっていたサークルの立て直しという経験を軸に、ITツール導入による業務効率化まで踏み込んで書いている点が、IT企業への自己PRとして機能しています。

デンソーテクノ株式会社

システムエンジニア職 内定者 | ES提出：2024年11月下旬 研究室

Q. 長所について、学生時代打ち込んだことについて、人生の転換期について

私の長所は育成力です。私は、現在研究室で2人の学部4年生の研究指導をしています。その中で最も苦労したのが仮想環境に関する指導でした。仮想環境は複数人でサーバを扱う際に重要ですが、作成時に複雑なコマンド入力が必要です。当初、適切に伝える方法が分からず、後輩達が混乱してしまうこともありましたが、コマンド一つ一つの意味を丁寧に説明したり、具体例を交えながら指導を進めたりすることで、後輩たちも正しく理解できるようになりました。この経験から、相手に何かを伝えるときには、伝え方を工夫することが大切だと学びました。貴社での業務においても、この育成力とコミュニケーション能力を活かせると考えています。

✎ 気を付けたポイント（本人コメント）

基本的にはこのように最初に結論→その結論に至った理由→会社でどうやって活かすかという感じで書きました。大前提として、誤字や脱字、文法的な誤りがないかを確認することを徹底しました。また、主観的なESになっていないかを確認するために友人同士でESをチェックしあって、おかしい点等がないかを確認していました。

まとめ

研究室での後輩指導という経験を通じて「育成力」をアピールしています。専門的な技術の話も、「伝え方を工夫した」という点にフォーカスすることで、技術に詳しくない読み手にも伝わる説明になっています。

サイボウズ株式会社

カスタマーサポート職 内定者 | ES提出：2024年3月上旬 個人事業（カフェ運営）

Q. 関心を持った事柄

私がkintoneの記事に関心を持った理由は、非IT部門手動でシステムを導入し、業務改善をしたということに親近感が湧いたからです。私は、大学時代に古民家カフェの運営しています。運営をしていく中で見つけた課題は、紙媒体での管理による収支管理の曖昧さでした。そこで学部やサークルでの会計業務で培った方法を活かし、Googleフォームやドライブでの管理方法を導入し、仕入や会計での収入の度にスマホで回答し、記録をつけられるようにしました。その結果、記入漏れは改善され約3割ほどあった無駄な仕入れを減らすことができました。そのため、ITによる業務改善などを実際に行っていたため親近感から興味を持ちました。学んだことは、ITの専門家でなくとも簡単にシステムを構築でき、柔軟にシステムを作れるということです。IT部門ではなく総務部が主体でkintoneを導入しており、それが他の部署にも広がっているということは、業務改善に大きく貢献しているだけでなく、情報共有し、チームワークあふれる社会を創るということにも関わってきていると感じました。また、業務・意思決定にかかる時間を減らすということは、企業にとって大きな利益であるとともに各企業ごとにワークフローシステムも違うので組織にあった使い方やそのサポートを提案していくことが社会に必要であると感じました。

Q. 過去のエピソード／自立と議論

私の自立と議論にまつわるエピソードとして、サークルで副部長としての経験が挙げられます。軽音サークルの副部長として運営を行うことで、一人では限界があってできないことも仲間と協力することで出来ることが最大化すると感じたからです。普段のサークル活動やイベントで、部費の徴収やイベントの概要に対して、部員が不満を持っていると感じました。そこで、会議を開き部員の意見を聞くことで、不満を解消し、イベントをより良いものにしていきました。また、その中で取った施策はイベントや活動内容をSNSで発信していくことやwebサイト作成、作業効率化も行いました。その結果、部員を徐々に増やすことができた現在では100人を超える部員たちが所属し、サークルを存続することができています。団体に所属している限り、コミュニケーションや情報共有は物事をこなしていく上でとても重要であり、今後も他の人とプロジェクトを行うときに必要になると思うので大切にしていきたいです。バンドサークルでの副部長をしており、そこでの目標は、コロナ禍でも活動を行い部員を増やすことです。コロナ禍のため入部してから副部長になるまで大きな活動ができておらず活動的な部員も10名以下でサークルの存続が危ない状況でした。その中で取った施策はイベントや活動内容をSNSで発信していくことやwebサイト作成、作業効率化を行うことです。SNS発信やwebサイト作成は、今まで経験したことがなかったことでしたが、自分で勉強することによってサークルに興味を持ってもらえるようなサイトづくりを心がけました。作業効率化としてGoogleなどのクラウドサービスを活用し、帳簿や申請書などの書類を電子化し、作業の効率化を行いました。その結果、部員を徐々に増やすことができた現在では100人を超える部員たちが所属し、サークルを存続することができています。この経験から、情報発信や計画性を持って物事を進める大切さを学びました。

✎ 気を付けたポイント（本人コメント）

まず、大切にしたいポイントは「チームワークあふれる社会を作る」を掲げている会社であるため、自分の人生の他者と関わって成し遂げたことを中心に作成したこと。また、ITの製品を販売している会社であるため、ITへの興味も丁寧に書くようにした。

まとめ

「チームワークあふれる社会を創る」という企業の理念を強く意識し、複数のエピソード(カフェ運営、サークル運営)を通じて一貫して「チームで成果を出す」姿勢をアピールしています。